

石川県金沢市・ふれあいの場としての二次林の管理

1. 地域の概況

金沢市の市街地から5 km 程度の所に位置する夕日寺町には、谷間の水田と雑木林が混在した、北陸地方の里地里山の典型的な環境が広がっている。

2. 自然環境の概要と施設整備

標高は低いが比較的急峻な地形であり、尾根から斜面にかけてはアベマキ、コナラなどの二次林、竹林が広がっており、谷間はかつて谷津田として利用されていた。1980年、里山の失われつつある自然環境を保全し、多様な生きものにふれあえる場として、県によって「夕日寺県民自然園」が開設された。面積は約77haで、これまでに自然観察歩道、ふれあいセンター、芝生広場、化石の広場などが整備されている。また、谷津田は改修されて「トンボアサクチュアリー」として整備されている。



図 石川県金沢市夕日寺町

3. 自然とのふれあいに係る取組

県では、この施設を里山の保全活動のモデル拠点と位置づけ、2007年に、里山ふるさと館や体験工房をオープンした。全県的に推進されている「いしかわ自然学校」のプログラムを開催する他、さまざまな活動団体との協働による利用と運営を進められている。里山林整備のリーダー養成にも利用されている。

かつての薪炭林のような明るい雑木林の創出を目的として、県民参加による里山林の整備活動が進められている。雑木林の管理や利活用を伝える場として、県民の自主的な活動を促進している。トンボアサクチュアリーの池で繁殖するオオクチバスやアメリカザリガニ等の外来生物の排除が住民参加型で進められている。また、近接した金沢大学・角間の森や奥卯辰山健民公園との連携も図られている。

4. 里山林の生物多様性

ササユリ、スハマソウなどの明るい林床に見られる植物が生育している。モリアオガエルやオニヤンマ、ヤマツツジ等、北陸地方の低山の里山に普通に見られる動植物が豊富である。



図 二次林とのふれあい

出典：石川県ホームページ

<http://www.pref.ishikawa.jp/sizen/satoyama%20new/yuhidera%20puroguramu.htm>